

一 所 懸 命

「一所に命を懸ける」昔、歴史の先生に習った記憶がある。

近世以前、「一所」とは、将軍様などにとって命を懸けて守る財産だったと聞いている。最近、相撲人気は今ひとつだが、名横綱貴乃花引退後、二場所連続優勝で見事に横綱へと上りつめた外国人力士がいる。朝青龍だ。彼は横綱昇進の際、「一所懸命」頑張るといっていたそうだ。

横綱審議委員会は、彼に対し「品行方正」横綱の品格が備わっていなければ、横綱を降格させるといっている。過去にそのような意見を述べられた横綱はいなかったのではないかと、非常に厳しい意見だと思う。何事においても厳しい世の中になってきたものである。我が組織にも複数の評価委員会がある。常に業務実績等を評価され、意見をいただくことになっている。今年度の決算が終わった頃、また、厳しい意見をいただくことになる。

朝青龍は、モンゴル人である。四国の高知県、明德義塾高校で勉強、相撲に励み、高知とゆかりのある高砂部屋に入門した。それからわずか四年で横綱まで上りつめた。21世紀最初の横綱になった、たいしたもののである。

昔、北海道は、相撲王国だった。大鵬、北ノ湖、千代ノ富士などなど…、しかし今はすっかり低迷している。今は、外国人の時代だ、特にモンゴル人は30～40人ほどいるという。昔、本庁経験のある、ある上司から、内地では「北海道といえば歌うたいと相撲取りだ」と言う言葉を聞いたことを思い出す。当時は笑って過ごしたが、相撲は国技であり、歌は人々の心をいやす、どちらも素晴らしい文化であると思う。その中で過ごしているのが北海道人だ。北島三郎、細川たかし、中島みゆき、大橋純子、北海道を代表する歌手である。お相撲さんは土俵の上、歌い手さんはステージの上でそれぞれ一所懸命頑張っている。

この原稿が掲載されるころは、当所の人事異動も一段落していることと思う。私の部下だった職員もそれぞれの地で一所懸命元気に頑張っているといることと思う。朝青龍は、単なる平凡なモンゴル人だったという。「凡人に非凡な業績を上げさせるのが組織である」とある米国の政治家が言った言葉を思い出す。発足したばかりの組織の中にいるものにとって大切な言葉だと思う。この言葉を忘れずに、これから平成15年度決算に向けて、皆さんと一所懸命頑張っていきたいと思っている。

(会計課長 貝森 繁輝)

*

*

*

*

表紙右上記号 ISSN 1346-6747の説明

ISSN は International Standard Serial Number (国際標準逐次刊行物番号)の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD (国際逐次刊行物データシステム) という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。

この番号は国立国会図書館 ISSD 日本センターから割り当てられたものです。